

編集委員

大野 裕	北西 憲二	北村 婦美	齊藤 万比古	下山 晴彦
中尾 智博	中村 伸一	林 直樹	平島 奈津子	福山 和女
妙木 浩之	山中 康裕			

編集同人

青木 省三	飯森 眞喜雄	伊藤 良子	植木 啓文	大森 健一	笠原 嘉
加藤 敏	亀口 憲治	北山 修	衣笠 隆幸	久保 千春	久保木 富房
小谷 英文	小林 和	坂口 信貴	坂野 雄二	鈴木 純一	高橋 徹
高江洲 義英	滝川 一廣	瀧口 俊子	田畑 治	中久喜 雅文	中村 敬
楳林 理一郎	西村 良二	原田 誠一	平木 典子	弘中 正美	広瀬 徹也
前田 ケイ	松浪 克文	村田 豊久	村山 正治	山内 俊雄	山上 敏子
渡辺 久子					(五十音順)

編集室から

希死念慮や自殺念慮を打ち明けられた時、誰しもが驚き、戸惑う。それは治療者も同じだ。避けられるものなら避けたい、反射的にそう思ってしまう人も多だろう。しかし、自殺の問題は精神科臨床と切っても切り離せない。数年前、「死にたいと言う人はうちでは診れない」と言われ、あるメンタルクリニックから流れて来た患者さんに出会い、(一部の)精神科医療機関の劣化の激しさに愕然とした。「手間暇のかかる患者は診たくない」と言うなら、診療報酬が同じなのはどうしても納得がいかない。保険診療を行うなら、応分の負担を負わねばならないと思う。他方、「希死・自殺念慮への対応法を知らないから診れない」と言うなら、これはこれで大問題だ。精神科臨床に携わる治療者には、希死・自

殺念慮への対応法を学ぶことは必須科目であるべきだ。

そもそも、どうして自殺を防がないといけな
いのかを知る必要がある。次に、治療者としての心構えを持つ必要がある。共感のジレンマ、逆転移の問題、一人で抱え込まない(同僚・上司への相談)、多職種との連携——これらはすべての疾患の治療に共通して重要なことだが、希死・自殺念慮への対応ではひと際重要である。しかし、心構えと根性論だけでは空回りするので、精神療法の技法を学ばねばならない。自殺予防ではスピリチュアルケアや宗教的ケアの視点も必要になる。この特集が読者の役に立ち、治療がよい方向に進むことを願ってやまない。

(Y.C.)

精神療法 第51巻第2号(年6回発行)

2025年4月5日発行(通巻267号)

定価2,420円(10%税込) 年間購読料17,820円(10%税込/増刊含/送料不要)

購読ご希望の方は電話・葉書にてお申し込み下さい。

全国の書店からも注文できます。

発行所 株式会社 金剛出版

発行人 立石 正信

〒112-0005 東京都文京区水道1-5-16 升本ビル

Tel. 03-3815-6661 Fax. 03-3818-6848

振替口座 00120-6-34848

e-mail eigyo@kongoshuppan.co.jp

URL <https://www.kongoshuppan.co.jp/>

表紙レイアウト 白井新太郎装釘室/印刷・製本 太平印刷社

【JCOPY】〈出版者著作権管理機構 委託出版物〉 本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。